

日本現代中国学会ニューズレター

第20号 2007年1月

Newsletter of The Japan Association for Modern China Studies No.20 January,
2007

学会ホームページ : <http://wwwsoc.nii.ac.jp>

目次

巻頭言 ご挨拶——学会創立60年にむけて——理事長 西村成雄

訃報

新役員体制

常任理事会からの報告

今後の予定

訂正とお詫び

【巻頭言】

ご挨拶——学会創立60年にむけて——

理事長 西村成雄

昨年10月21日、22日の両日、和光大学で開催されました第56回全国学術大会の総会におきまして、新たに理事長を仰せつかりましたが、関西部会でお引き受けさせていただいたという気持ちが強く、とりわけ昨年1月に急逝された石田浩関西部会代表の身代わりともいふべき心情のなかにあります。その意味で、より若い世代の登場を期待すべき時代に、いささか古い世代が出ることにある種の躊躇を感じていますが、それ以上に、毛里和子前理事長をはじめ、会員の皆様からの御協力をいただかねばとうていその任に耐えられないことを痛感しております。微力ですがどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、いまさら申しあげるまでもなく、日本現代中国学会は1951年以来、同時代中国社会の変動しつつあるあらゆる分野を、その歴史と現実の緊張関係のなかで認識し再定義する課題を設定し、解説し、広義の意味での地域研究としての現代中国学を蓄積し、社会に発信してまいりました。そして、その歴史は今や60年になろうとしています。

このようなそれぞれの時代における刺戟的な論点提示とその解説は、現代中国学会全国学術大会のシンポジウム企画として伝統的に定着しており、今後さらに充実発展させる価値あるプログラムとして継承する必要があると思います。学会誌『現代中国』に掲載されていますシンポジウム一覧によりますと、近56年来の先人、会員の皆様の現代中国認識とその学術的成果は、同時代日本社会の対外認識の重要な一環を

構成する中国認識史の蓄積でもあったといえましょう。

と同時に、国際的環境下における中国社会の変容そのものを事実として等身大にとらえ、それら学術情報を総合化する努力を基盤にしつつ、その歴史的現実的意味を読解し、かつ現代日本の中国との関係性をいかに構想し構築するのかという、社会的要請にも応える課題にとりくんできた歴史でもあったといえましょう。

そこで、近づきつつある本学会創立60周年にむけて、現代中国再認識の新段階を解明する課題を設定し、具体化する可能性を検討することは、単に学会内のみならず社会的にも求められていると考えます。たとえば、今日の段階からみて20世紀中国社会に占める中華民国の歴史的段階をどう再認識しうるのか、また現代にいたる中華人民共和国の60年をどのように再定義し今後を展望しうるのか、あるいは、現代中国社会の政治的経済的イデオロギー的全空間にわたる変動と変容を視圏に入れた新たな中国認識の構築、そこから導かれる日中関係性の新段階への展望、国際社会における中国社会の新たな立ち位置など、これらの諸問題を総合的にとらえる必要性はますます増大しています。

学会として、可能ならば、まず2007年度、2008年度の各全国学術大会において、ひとつの案として「中華人民共和国60年を再認識する国際シンポジウム」の開催を、企画委員会のもとで具体化することができるかどうかを検討することを提案したいと考えます。そのためには、募金活動などを含む財政的基盤の充実をはかる必要がありますが、それらを含め今後企画委員会で検討を加えてゆくことができればと思います。その成果は、学会誌『現代中国』に反映するとともに、関連する企画のもとで社会に発信することにつながることを期待したいと思います。

いうまでもなく、このような企画の実現には、学会の基本的な三つの結集点であります全国学術大会、各部会研究集会、学術誌の編集をさらに充実させ発展させることが大前提となります。また、国際交流のとりくみを強めるための措置も考える必要があると思われまふ。今後、理事会の皆様、新設の副理事長および事務局ともども努力してまいりたいと思ひます。ぜひ、全会員の皆様の多方面からの御協力を心からお願ひ申しあげますとともに、学会の日常活動を支える事務局メンバーの皆様への積極的な御支援をお願い申しあげます。 (2007年1月1日)

〔訃報〕日本現代中国学会理事を長く務められた東京大学名誉教授 丸山昇氏が2006年11月26日、肺炎のため逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。なお、「丸山昇先生を偲ぶ会」は2月18日15時より学士会館にて行なわれます。

【新役員体制】

2006年12月17日に開かれた常任理事会において、以下の新役員体制を決定した。

理事長 西村成雄（大阪外国語大学）
副理事長 並木頼寿（東京大学）
事務局長 瀬戸宏（摂南大学）
編集委員長 宮尾正樹（お茶の水女子大学）
広報委員長 江上幸子（フェリス女学院大学）
関東部会代表 （未定）
関西部会代表 佐々木信彰（大阪市立大学）
西日本部会代表 岩佐昌暲（熊本学園大学）

●事務局

事務局長 瀬戸宏（摂南大学）
会計 宇田川幸則（名古屋大学）
企画 大西広（京都大学）

●編集委員会

委員長 宮尾正樹（お茶の水女子大学、文学）
副委員長 村田雄二郎（東京大学、書評担当、思想）
委員 奥村哲（首都大学東京、歴史）、小野寺淳（横浜市立大学、非理事、地理・経済）、佐藤普美子（駒沢大学、非理事、文学）、新谷秀明（西南学院大学、文学）、趙宏偉（法政大学、政治・外交）、辻美代（流通科学大学、経済）、土田哲夫（中央大学、歴史・政治）、山本真（筑波大学、歴史・台湾）

●広報委員会

委員長 江上幸子（フェリス女学院大学）
ホームページ管理 西野由希子（茨城大学）
ニューズレター編集 阪本ちづみ（法政大学、幹事）

●組織検討委員会

委員長 高見澤磨（東京大学）
委員 伊藤徳也（東京大学）、佐々木信彰（大阪市立大学）、通山昭治（九州国際大学）

●企画委員会

委員長 西村成雄（大阪外大）
副委員長 大西広（京都大学）
委員 並木頼寿、瀬戸宏、宮尾正樹、江上幸子、佐々木信彰、岩佐昌暲、他一名

●関東部会

（未確立）

●関西部会

代表 佐々木信彰（大阪市立大学）
総務 菅原慶乃（関西大学、幹事）
事務局 宇野木洋（立命館大学）、巖善平（桃山学院大学）、田中仁（大阪外大）、辻美代（流通科学大学）

●西日本部会

代表 岩佐昌暲（熊本学園大学）

【常任理事会からの報告】（06年12月17日開催）

1. 全国大会総括 参加者約186名（開催校調べ）。

2. 業務委託について

現代中国学会ではこれまで（社）中国研究所に業務委託していたが、中研の事情により06年度全国大会をもって業務委託引き受けを打ち切りたいとの申し出があった。交渉の結果、業務委託を07年1月31日まで延長することで中研と合意した。これと関連し、現中学会会計交代は07年2月1日からとすることを確認した。また、中研への業務委託が終了する07年1月31日以前に新たな委託先と07年2月1日より業務委託開始で契約するよう理事長、事務局長に委任することを確認した。新しい業務委託先は決定しだい学会ホームページで公表する。

3. 『現代中国』編集

・81号より英文要旨および中文目次を掲載する。

・第三回太田勝洪記念中国学術賞の『現代中国』掲載論文（80号）からの推薦が該当者なしとなったことが紹介され、太田賞の意義を現中学会内外で広く紹介宣伝することの必要性が確認された。

4. 関東部会

部会援助金として6万円充てることを決定した（関西部会6万円、西日本部会3万円）。ただし、現時点で関東部会代表が未定であるなど部会体制が確立していないため、援助金執行は体制確立後とすることを確認した。今後、並木頼寿前事務局長を担当者として部会体制早期確立を求めるとともに、関東部会のあり方について組織検討委員会に諮問する。

5. 事務局所在地

07年2月1日以降、新たな業務委託先を学会事務局所在地とする。

6. 現中学会創立60周年にむけて

西村理事長より2009年中華人民共和国建国60周年、2010年現中学会創立60周年に向けて2007年、2008年全国大会で連続国際シンポジウムをおこなうこと、論文集を刊行すること、国際シンポジウム実施の財源作りのため募金活動をおこなうことの提起があり、意見を交換し、引き続き企画委員会で討議することとした。

7. 07年度関西部会大会、全国大会

関西部会より、07年度関西部会大会を6月3日（日）関西大学で開催することを決定したとの報告があった。07年度全国大会も10月20日（土）、21日（日）立命館

大学びわこ・くさつキャンパスで開催することが確認された。

8. 役員

別項の役員体制のほか、阪本ちづみ（ニューズレター編集）、菅原慶乃（関西部会総務）両会員を幹事に任命した。高橋満会員を評議員に任命するよう次期総会に提案することを決定した。

【訂正とお詫び】

『現代中国』80号所載の英文目次で、著者氏名の表記に以下のような誤りがありました（下から2行目）。

（誤）SAKAI,Hiroshi→（正）SAKAI, Hirobumi

坂井洋史様及び会員の皆様にお詫びし、訂正いたします。（『現代中国』編集委員会）



日本現代中国学会事務局

〒153—8902 東京都目黒区駒場3—8—1 東京大学教養学部中国語研究室気付

郵便振替 東京 00190—6—155984

編集担当 阪本ちづみ（法政大学）